

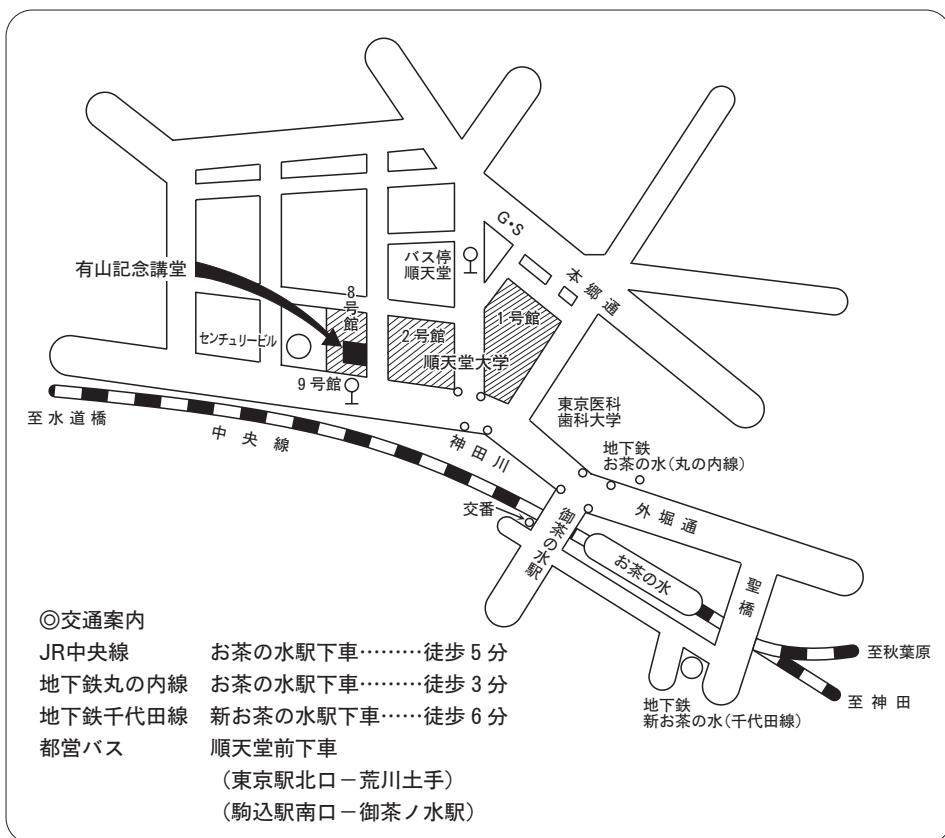
# 第 532 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会

### プロ グ ラ ム

日 時 平成17年9月17日(土)午後2時00分

場 所 順 天 堂 大 学 有 山 記 念 講 堂



#### 演題の申し込みについて

- 講話会の当日、文書で提出してください。
- 抄録(160字内外)をおつけください。
- 原則として指定発言者をご記入ください。
- 演者、指定発言者は、当日抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

#### 世話人

プログラム係 勝沼 俊雄  
東京慈恵会医科大学小児科 03(3433)1111  
FAX 03(3435)8665

会場係 大塚 宜一  
順天堂大学小児科 03(3813)3111  
事務局 03(5388)7007  
事務局電子メール shounihifuka@joy.ocn.ne.jp

# 第 532 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分, 指定発言 5分, 追加討論 2分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:25

座長 宮田 市郎 (東京慈恵会医科大学小児科)

1) 結節性甲状腺腫の 1 女児例 —他の症例との比較検討—

○石井志布子, 浦上 達彦, 森本 繁夫, 船木 聰,  
風戸光一郎, 長谷川真紀, 村上 仁彦, 青柳 光洋 (駿河台日本大学病院小児科)

症例は 6 歳女児。頸部腫脹を主訴に来院した。甲状腺右葉に  $4 \times 2$  cm 大の弾性硬, 表面平滑な腫瘤を認めた。甲状腺ホルモン値に異常はなかった。超音波検査で右葉に内部均一, 境界不明瞭な径 2 cm の腫瘍と他の 2 カ所に占拠性病変を認めた。吸引細胞診を行い最終的に腺腫様甲状腺腫と診断したが, 手術適応はないと判断し, TSH 制御目的で LT 4 の内服を開始した。他の自験例と比較検討し報告する。

2) 尿崩症の発症 1 年後に、画像検査で脳腫瘍が見つかった 12 歳男児例

○榎原 オト, 斎藤 正博, 坂口 佐知, 和田万里子,  
藤村 純也, 清水 俊明, 山城雄一郎 (順天堂大学小児科・思春期科)  
宮嶋 雅一, 新井 一 (順天堂大学脳神経外科)

12 歳男児。11 歳で尿崩症を発症。診断時の頭部 MRI は異常なく、特発性尿崩症として経過観察されていた。約 1 年後、頭部打撲のため、偶然頭部 CT が施行され、松果体部に腫瘍を認め、生検により胚細胞腫瘍と診断。胚細胞腫瘍は、尿崩症を初発症状として呈することがあり、尿崩症診断時に画像で異常所見が認められなくても、注意深い経過観察が必要である。

3) アデノイド腫大が体重増加不良の原因であった乳児の 2 症例

○柏木 博子, 関谷 恭介, 小泉 沢, 松本 務, 高山ジョン一郎 (国立成育医療センター総合診療部)  
川城 信子 ( 同 耳鼻咽喉科)

アデノイド腫大は幼児期以降の上気道閉塞の主たる原因だが乳児での報告は少ない。上気道閉塞症状を呈するアデノイド腫大に体重増加不良を合併した乳児 2 例を経験した。アデノイド切除後、体重増加、精神運動発達、睡眠時無呼吸が改善した。乳児アデノイドは体重増加不良の一因となり、耳鼻科と小児科が協力して診ていくべき疾患である。

第 2 グループ 14:25—14:50

座長 田中 大介 (昭和大学付属豊洲病院小児科)

4) Bronchopulmonary foregut malformation (BPFM) の 2 例

○内藤 陽子, 樋口 昌孝, 高橋 賢至,  
古道 一樹, 林 拓也, 高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)  
田波 穂 ( 同 放射線科)

下部食道から右肺が発生した BPFM の 2 例。2 例とも右前胸部に心音聴取、右肺呼吸音なし。胸部 X 線上、心陰影は右側偏位、右主気管支透亮像なし、右下肺野外側にわずかに含気を認めるのみ。BPFM では、気道と食道が正常に分離せず交通を有する。難治性肺炎に罹患しやすく、早期診断と感染予防が重要である。

## 5) 急性左心不全に伴う肺出血で入院となった僧帽弁腱索断裂の1症例

○安藤 達也, 藤原 優子, 寺野 和宏, 河内 貴貴, 衛藤 義勝 (東京慈恵会医科大学小児科)

症例は4ヵ月女児で入院前日より発熱を認めた。翌日呼吸障害があり近医受診。心雜音を認め僧帽弁閉鎖不全を指摘され当院紹介。人工換気を開始したところ気管内吸引物は血性で、レントゲン上のfocalな陰影は肺出血と考えられた。僧帽弁腱索断裂は稀な病態だが報告は散見される。発症は急激で診断時に心原性ショックであることも稀ではない。

## 6) ヒルシュスブルング病（H病）に対する腹腔鏡補助下根治術

○宮野 剛, 山高 篤行, 矢内 俊裕, 小林 弘幸,  
岡崎 任晴, 加藤 善史, 宮野 武 (順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科)

当科で腹腔鏡補助下根治術を施行したH病33例を対象として、術中・術後合併症、術後腸炎の発生頻度、術後排便機能などについて検討し、術後の短期・中期成績をprospectiveに評価した。4歳以上かつ1年以上経過観察した20例における排便機能評価（スコアリング）では、excellent 5例、good 10例、fair 4例、poor 1例であり、stainingが12例にみられたが、全例に便秘を認めていない。

休憩 14:50—15:00

感染症だより 15:00—15:10

座長 山本 光興 (山本小児科)

岡部 信彦 (国立感染症研究所感染症情報センター)

教育講演 15:10—15:40

座長 関口進一郎 (慶應義塾大学小児科)

10代の性感染症の現状と対策

早乙女智子 (ふれあい横浜ホスピタル産婦人科医長)

10代の性感染症を見つけるには、性行為の有無を聞いたり疑うことから始まる。現状ではすでに高校生で40%程度の性交経験者がいる。性交に関して問診することは医療従事者にとって抵抗感があったとしても、若者の方にはあまりないので、臆せず確認することが診断に役立つ。意識しづきないことが秘訣である。対策としては性交開始を遅らせる教育や、性感染症の検査を受けるように促すことなど、予防教育のためにできることは多々あり、小児科がその窓口として適切であると考える。

第3グループ 15:40—16:10

座長 稲毛 康司 (日本大学付属練馬光が丘病院小児科)

## 7) 乳児期発症の若年性関節リウマチの1例

○大原 千知, 伊藤 紀子, 川真田 光,  
前田 基晴, 渡辺 直幸, 別所 文雄 (杏林大学小児科)  
秋元 恵実 (グローバル治療室)

7ヵ月女児。発熱のない左第4手指関節、膝関節を含む多関節腫脹を主訴に来院。膝関節MRIにて膝関節腔、膝蓋上囊に滑膜の炎症と液体貯留認め、多関節型若年性関節リウマチ（JRA）と診断。NSAID内服開始するも改善せずステロイド投与にて関節腫脹の改善を認めた。乳児発症のJRAの頻度は低く若干の文献的考察を加え報告する。

8) 蛋白漏出性胃腸症、鉄欠乏性貧血を呈した食物過敏性腸症の1男児例

○宮田 有里, 杉田 正興, 斎藤 洋平, 小口 学,  
南風原明子, 栗屋 敬之, 高田 昌亮(東京都立豊島病院小児科)  
鈴木 恭子(順天堂大学浦安病院小児科)  
渡辺 晴子(済生会川口総合病院小児科)

人工栄養の12カ月男児。低蛋白血症TP3.4, 貧血Hb8.3があり精査した。尿蛋白陰性, 便潜血3+、便中 $\alpha$ 1AT排泄増加, 99mTc-DTPA-HSAシンチで腸管への蛋白の漏出を確認した。IgE高値、各種食物抗原に対する特異的IgE抗体が陽性で、小腸粘膜像は食物過敏性腸症に合致した。除去食、経口DSCG、鉄剤投与により症状は著明に改善した。

指定発言 工藤 孝広(順天堂大学小児科・思春期科)

9) 当院で経験した亜急性壊死性リンパ節炎4例の検討

○清水 彩子, 松永 典子, 朝貝 省史, 岡田 隆文, 岡田 千晶, 北西 史直,  
三春 晶嗣, 津村 由紀, 櫻井 倫子, 松原 啓太, 岩田 敏  
(独立行政法人国立病院機構東京医療センター小児科)

亜急性壊死性リンパ節炎(菊池病)は発熱、白血球減少、有痛性リンパ節腫脹を特徴とする原因不明の疾患である。症例は9歳から14歳の4例。4例中3例でリンパ節生検が施行されている。いずれもステロイドを使用せず自然寛解に至っている。4症例の臨床経過、検査所見の特徴を文献的考察を含め報告する。

第4グループ 16:10—16:40

座長 小林 信一(国立成育医療センター膠原病感染症科)

10) 热帯熱マラリアの小児2例

○荷見 博樹, 住田 智一, 石井 卓, 春山和嘉子,  
水村 玲子, 西口 康介, 玉木 久光, 大森 多恵,  
伊藤 昌弘, 三沢 正弘, 大塚 正弘, 関 一郎(東京都立墨東病院小児科)

熱帯熱マラリアは国内での報告例は稀だが、診断、治療が遅れると致死的な脳マラリアを発症する恐れがあるため、流行国より帰国して発熱した患者では常に念頭に置く必要がある。今回、診断時発熱9日目の4歳男児(赤血球寄生率2.8%)と発熱1日目の5歳男児(赤血球寄生率0.3%)の2例を経験したため、臨床経過を報告する。

指定発言 大西 健児(東京都立墨東病院感染症科)

11) 診断に苦慮した椎体(L3)骨髓炎の1例

○井上美沙子, 那須野聖人, 小林 陽子, 中村 浩章, 下田 牧子,  
黒岩 玲, 宇野 拓, 二瓶 浩一, 岸田 勝, 四宮 範明(東邦大学医療センター大橋病院小児科)

13歳の男児。発熱、腰痛にて来院。急性炎症反応上昇を認めた。MRIでL3椎体にT1低、T2高信号、左腸腰筋間にT2高信号域を認め、第3腰椎椎体炎を伴う骨髓炎、左腸腰筋膿瘍と診断した。血液培養でMSSAを検出した。CTM投与で改善、後遺症は認めていない。小児期椎体骨髓炎について文献的考察を含め報告する。

12) 表在性カンジダ症の1例

○澤田まどか, 水野 克己, 竹内 敏雄, 板橋家頭夫(昭和大学小児科)

在胎37週で出生の児。日齢1に体幹の丘疹、日齢3に全身の紅潮と膿疹を認めた。皮膚生検でカンジダが観察され、血中 $\beta$ -Dグルカンは低値、諸検査より表在性カンジダ感染症と診断した。全身にケトコナゾールクリームと口腔にアンフォテリシンBを塗布した。日齢14には手掌を除いてすべての発疹が消失した。皮疹の所見を含め報告する。

## 運営委員会だより

1. 7月の講話会参加者180名、新入会3名（会員数1868名）、ベビーシッタールーム利用者4名。
2. 運営委員会では、地方会講話会を活発な意見交換の出来る場にしようと考ておりまます。つきましては、  
発表される演題に関し、診断や治療で苦慮された点を一枚のスライドにまとめて合わせてご発表頂くよう、  
ご協力お願い申し上げます。また、指定発言なるべく取り入れるよう、お願い申し上げます。
3. 東京都地方会のスケジュールが順天堂大学医学部小児科のホームページ（下記）に加わりましたのでご参  
照下さい。その他、地方会の運営などに関し、ご意見、ご希望などございましたら、どうぞご連絡頂きま  
すよう、宜しくお願い申し上げます。<http://www.timelyhit.ne.jp/ped-juntendo>  
なお、9月からの予定は下記の通りです。

8月はお休み

第532回 平成17年9月17日（第3土曜日）

第533回 平成17年10月22日（第4土曜日）

11月はお休み

第534回 平成17年12月17日（第3土曜日）

第535回 平成18年1月21日（第3土曜日）

第536回 平成18年2月25日（第4土曜日）

第537回 平成18年3月18日（第3土曜日）

4. 10月、12月の教育講演は下記のように決まりました。

10月 加藤達夫先生（聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院）に日本脳炎ワクチンやBCG接種を中心  
に予防接種の最新の話題について、ご講演頂く予定です。

12月 古荘純一先生（青山学院大学文学部教育学科・昭和大学医学部小児科）に医師の側から見たアス  
ペルガー症候群についてご講演頂く予定です。

どうぞ、皆様奮ってご参加下さい。

### Computer Presentationをご希望の演者の先生方へ

Computer Projectionによる発表を受け付けます。ただしWindowsのみで下記要領でお願いいたします。  
Powerpoint 2000以上で作成、Font文字はPowerpoint備え付けのみ。CD-RもしくはFloppy Diskにて、  
第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付  
まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルスcheckをお願いいたします。

### 〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設いたしました。利用ご希望の方は、利用当日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

### 演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守く  
ださるようお願いいたします。（原稿は活字もしくはワープロ文字で）

WAKODO

薬価基準収載

気管支拡張剤  
テオフルマート® ドライシロップ 20%  
TEOFURMATE Dry Syrup 20%  
(テオフィリン徐放性ドライシロップ)

劇薬、指定医薬品



※効能・効果・用法・用量・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご覧ください。

資料請求先

販売元 和光堂株式会社  
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

製造元 東和薬品株式会社  
〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号